令和元年度第２回佐伯市総合教育会議

１　日　時　　令和２年７月28日（火）15時00分～16時35分

２　場　所　　佐伯市役所５階庁議室

３　出席者　　（構成員）

　　　　　　　　　　　　佐伯市長　　　　　　　田中　利明

　　　　　　　　教育委員会

教育長　　　　　　　　宗岡　功

　　　　　　　　　　　　教育委員　　　　　　　米倉　ゆかり

　　　　　　　　　　　　教育委員　　　　　　　岩佐　礼子

　　　　　　　　　　　　教育委員　　　　　　　平井　國政

　　　　　　　　　　　　教育委員　　　　　　　小寺　香里

（関係者）

　　　　　　　　　　　　教育部長　　　　　　　渡邉　和彦

　　　　　　　　　　　　学校教育課長　　　　　石井　睦基

　　学校教育課総括主幹　　柳井　慎也

　　学校教育課副主幹　　　御鱗　角治

　　　　　　　　　　　　佐伯城南中学校教諭　　立石　俊夫

　　　　　　　（事務局）

　　　　　　　　　　　　総合政策部長　　　　　高原　常彰

　　　　　　　　　　　　政策企画課長　　　　　植田　実

　　　　　　　　　　　　政策企画課総括主幹　　末永　健二

　　　　　　　　　　　　政策企画課副主幹 　　神﨑　陽子

【要旨】

４　市長あいさつ

　（市　　長）皆さんこんにちは。

　　　　　　　本日は、午前中に総合計画審議会がありまして、岩佐会長のもと御意見をいただきましたが、質問が多かったのが人材育成、特に小・中学校の学力テストの問題、あるいは今後の公立学校のあり方だとか、そういう事が議論になりましたが、良い御指摘をいただいたと思っております。GIGAスクールのタブレットの話も出ました。約２億の巨額ということで私も迷いましたが、国が1/3、県が1/3、市が1/3と、コロナの影響でしょうか、これも予算がなければこういった推進はできなかったはずですが、タブレットの整備も時間がかかるのでしょうけど、今日は立石先生がお見えですが、これから学校あるいは家庭でどういった風にタブレットが使えるのか、しっかりとお話を聞きながらやっていきたいと思います。私も学校訪問しましたが、ハードは整備してもソフトがどれだけできるのかという課題も含めて考えていかなければならないと考えております。将来このまちは、広いだけではなく、スマートシティ、あるいはスーパーシティ、自然の豊かさや食物の豊かさ、文化芸術等々がありますので、AI環境が整えば、必ず人は戻って来ると期待しております。今回は宗岡教育長、渡邉部長、小寺委員が新任でお見えですが、どうぞよろしくお願いいたします。

５　議　題　　アフターコロナの新しい教育のあり方について

　（市　　長）それでは、協議に入ります。アフターコロナの新しい教育のあり方について、学校教育課職員と、城南中学校から立石先生がお見えになって説明をしていただきます。説明後に皆さんから意見を伺いたいと思います。

　（石井課長）【職員紹介】

　　　　　　　それでは、今回はZOOMを使い、タブレットで説明します。別室に職員がおりますので、お手元のイヤホンを使用し、説明を聞いていただきたいと思います。

　　　　　　 【タブレットからZOOMで別室の職員が資料説明】

　　　　　　　説明を終わります。質疑応答は最後に一括して受けたいと思います。それではこの後、教科指導で実践していただいております、佐伯城南中学校の立石先生のデモンストレーションを体験していただいて、今後タブレットをどのように活用していくのかを説明していただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

（立石先生）こんにちは。佐伯城南中学校の立石と申します。

　　　　　　昨年・一昨年で北海道から沖縄まで、かなりの所で模擬授業をしてきました。このような機会を与えていただき感謝しております。

　　　　　　　今回は、佐伯の子どもたちがどこまで出来ているのかという事をお伝えし、授業もやりたいと思います。私は、2014年から直川中学校に６年間勤めました。直川中学校の実践が、主に今日の話の内容になります。2014年、ロイロノートスクールからモデル校にしてもらい、当時の先生方に御尽力していただき、20人から30人の生徒用にiPadを用意してもらいました。ロイロノートスクールというアプリを今日も使いますが、2015年から市内全ての小中学校にアプリが入っています。使わないのは大変もったいない。２年前からLTEのiPadを40台借りて、子どもたちと先生たちで２年間使いました。LTEですから、Wi-Fi環境は関係なく、通信料はロイロ社持ちで、色々な事をやっていました。授業だけではなく、健康観察もしていました。これを使うことによって、色々な事ががらっと変わりました。３月から休校になりましたが、端末を１人１台持って帰っていたので、困りませんでした。健康診断で電話することもありませんでした。勉強も滞らなかったし、こういう事に使えるんだ、というのが大きかったです。

　　　　　　　【プロジェクタスクリーンによる説明】

　　　　　　　それでは、授業でどのように使っていたかを説明します。

国語の授業や、理科の授業など、使わせるだけでなくプレゼンさせたりしました。英語の授業では、先生が発音を録音し生徒に送り、生徒が何回も練習して、一番良い発音を録音し送り返しました。先生は、一人一人の学習レベルも分かります。紙を配って紙を集めるよりずっと早いし、みんなの回答を一度に見ることができます。

　　　　　　　授業以外での活用もありました。「理想の佐伯市の予算を考える」という事もしました。このように、政策の視点ごとにロイロの中で円グラフを作りました。「元号に関する懇談会」というのも行いました。これらは、iPadやロイロがあったからこそ実現しました。

　　　　　　　中国からの訪問団が来た際も、中国語は分かりませんでしたが、翻訳アプリがありました。平和祈念館やわらぎへ校外学習に行った際も、LTEでしたので、Wi-Fiがなくても大丈夫でした。子どもたちは自分でカードを作り、レポートを作成し、デジタル新聞を作りました。紙に書く必要もなく、インターネットで更に深く調べることもできました。

　　　　　　　IT指導員から、情報モラルの指導があった際も、タブレットを使って指導を受けました。

　　　　　　　修学旅行にも持って行きました。良かった点は、道に迷っても調べられるということです。宿泊先からも報告が受けられる。学校行事にも活用できます。

　　　　　　　プレゼン能力にも役立ちます。３年生が卒業時、それぞれカードを作りみんなの前でプレゼンしました。

　　　　　　　３月から休校したのですが、その間もZOOMで毎日、校長挨拶、健康観察、朝の会・帰りの会を行いました。学習においても、自分の弱点を学び直すことができました。このように幅広く使えます。先ほど、市長が費用の事をおっしゃいましたが、費用をかける意味は絶対にあると思います。

　　　　　　　まとめると、一人一人の学びを正確に、迅速に、継続的に把握することが出来ます。圧倒的な時間短縮になります。児童も生徒も教師もストレスなく学校生活で使用できる簡便さがあります。多様な活用場面を創造できます。学ぶ場所も時間も選びません。

　　　　　　　では、これから授業で実践していきます。

　　　　　　　【iPadによる実践授業】

　　　　　　　①カメラを使って顔写真付きのカードを作る

　　　　　　　②「恩師」の名前を書いて送る

　　　　　　　③アンケートカードの作成

　　　　　　　④テストカードの作成

　　　　　　　このように授業をしてきましたが、佐伯市は５年も前からやっています。今の問題は、端末が無いことです。GIGAスクールで整備されて活用されたら、本当に素晴らしいと思います。佐伯市の行政においても、観光などで活用できる。佐伯の観光地の動画を、今の子どもたちが、将来作るかも知れない。このような授業を経験したからこそ、作ることができるんです。そのような事をお考えいただきたいと思います。

　　　　　　　長くなりましたが、説明を終わります。ありがとうございました。

　（市　　長）それでは、質疑応答を受けたいと思います。何かありませんか。

　（平井委員）使っているのは子どもたちなので、心配しているんですが、ビジネス業界もコロナの関係でウェブ会議をしていて、私も何度かしたんですが、割と１対１なんですね。だんだん慣れてくるんですが、気が抜けない。子どもたちのメンタル面が不安です。

　（立石先生）オンラインの授業で言うと、同期型と非同期型というのがあります。YouTubeの授業を見るのもオンライン授業です。ZOOMで１対１で先生が授業をして、生徒が授業を見るのもオンライン授業です。今、全国でやっている授業は、50分全て先生が話をして子どもたちが見るという授業は、やっていないんです。子どもたちもストレスだし、先生も、反応が無いから分からないんです。授業の最初の10分はつながる、中の活動は自分たちで問題やりなさい、ドリルをやりなさい、終わったら何分後に来よう、というように、分けてやっています。子どもたちが学びやすいのが一番なので、そのための工夫は考えながらしないといけないと思

います。

（教 育 長）ハイブリッド型の授業で。

（立石先生）それは良いと思います。この状況になって、やらなければならなかったら仕方ない。学校に来られなくなった、非常事態宣言が出た、という時は。それでなかったら、紙を使ってノートにびっしり書かせます。そういう授業をしつつ、これもやる。良いとこ取りが大事なのではないかと思います。良いとこ取りをするには、先生方は一方の面では大変長けているので、オンラインで授業をするという面にも長けていただいて、初めて良いとこ取りができるのではないかと思います。

（岩佐委員）２つ質問があるんですが、これから生徒がiPadを持って、私たちが持っているようなアプリは使えないようにして、変な検索をしないようにフィルターをかけるだとかは。

（立石先生）これは運用なので、市がどう考えるかは分かりませんが、私が訪問した学校は、全てフィルターをかけて、MDMと言いますが、学校内では、LINEもつながらないし、他のアプリもダウンロードできないようにして、安全に使えるようにしていましたが、自治体によっても違うし、逆の考え方の人もいます。子どもたちが安全に使うという事をちゃんと勉強して、一般社会と同じような使い方をした方が良いんじゃないかという人もいます。自分のiPhoneを持って来ても、iPadを持って来ても良いよという学校もあります。運用の仕方なので、考えながら進めていく方が良いと思います。

（岩佐委員）iPadを使った授業のあり方とか、ツールの使い方とか、立石先生のような先生を増やすために研修をする予定はありますか。

（御鱗副主幹）研修について説明します。先生方が使えるようにならないと、子どもたちに使い方を教える事ができないので、推進委員会という組織を作って検討しているところです。推進委員会のメンバーに、立石先生をはじめ、小中学校でICTに長けた先生方に来ていただいて検討しています。活用されている先生もいれば、全く活用していない先生もいて、差が激しいんですね。誰でも、スモールステップで、段階を踏んで研修を受けられるように考えています。

　（石井課長）御鱗を加えて、月に１回研修をする計画なんですが、全国一斉にこの状況なので、端末がいつ入るのかというのがあります。セキュリティは、共同で学習する部分と、個人で学習する部分があるので、どれにセキュリティをかけるのかというのがあります。子どもたちが家庭でどのような学習をやりたいのか、また、やれるのか。委員の意見も聞きながら、子どもたちがどこまで自由に使えるのかという事を検討していきたいと思います。

　（渡邉部長）MDMは導入予定です。

（立石先生）大元を締めて、簡単に入れないようにする。管理するシステムをちゃんと入れるということです。

（岩佐委員）実質、高校生くらいになると皆スマホを持って、YouTubeを見たり、自由にやっていると思うので、こちらはフィルターをかけて、その為だけに使うのも良いと思います。

（立石先生）小学校低学年から使うなら、制限は必要だと思います。楽しいなと思いながら、勉強の足しになるというのが一番だと思います。

（教 育 長）直川中の実践を聞いて、GIGAで1人１台になる時に、これを全部の学校に早く浸透させるというのが我々の使命だと思っています。莫大なお金をかけていただくので、頑張っていきたいと思います。

（市　　長）直川中がこれだけ先進的にやっているのは本当に誇りに思いました。もっと早く知っていれば。修学旅行なんか、本当に良いですね、面白い。

（立石先生）ぜひ、全部の小中学校の児童生徒が使えるよう、よろしくお願いいたします。

（市　　長）全体が直川中のようになるには、どれくらいかかりますか。

（立石先生）教育委員会のスタッフは専門家ばかりなので。子どもたちは早いです。城南中学校は、４月の時は全くできなかったんですが、１時間教えて出来るようになりました。休校中も、若い先生たちを集めて、自主研修しました。４時間目には、若い先生方は、ZOOMやロイロでどんな授業が出来るか、ミニ授業をしました。ただ、端末が無いから毎日はできない。もしあったら、すぐ使えると思います。

（市　　長）子どもたちが使うのも、この大きさですか。

（立石先生）同じです。それより大きかったら、机で邪魔なんです。キーボードなんて付いていたら、授業の邪魔になります。

（小寺委員）破損した場合はどういった手だてをお考えですか。

（御鱗副主幹）破損した場合に備え、教育委員会で予備に100台持っていて、交換になります。個人負担はありませんが、故意に破壊した場合は想定していません。故障が少ないというのがiPadを選定した一番の理由にもなっています。

　 （小寺委員）低年齢だと、故意も無くはないと思います。

　 （教 育 長）LTEではありませんが、家庭でWi-Fi環境がない場合に600台ルーターを貸し出すようにしているので、調べ学習にも対応するようにしています。

（立石先生）私が最初に使ったのは、京都の修学旅行でした。京都は京都Wi-Fiというのがあり、それにつなげば１日だけ使えるので、それでやったんですが、確実につながる方法を担保しておけば、使う側も、使わせる側も、ストレス無く使えると思います。先生たちは、１回でも使えなかったり、つながらなかったりするとそれがトラウマになって、使わなければ良かったということになりかねない、そこをちゃんと担保してあげるということです。

（小寺委員）私も教員をしていた時は、マル付けなどは自宅に持ち帰らない、個人情報があるので、どこかに忘れるということが無いようにということがあったのですが、今日の授業も、反復練習ができるという利点はあるのですが、反面、それをずっとやってしまうという事があります。テレビ脳とか、ゲーム脳とか言われた時代もありますが、視力とか、健康面も合わせて指導していただけたらと思います。

（立石先生）情報モラルとか、リテラシーというのも合わせてやる必要があります。包丁の話があります。包丁が無いと料理は作れない。でも包丁は人を刺す凶器にもなる。使い方次第だということです。場所と使い方を子どもに教える事は大事だと思います。

（渡邉部長）小寺委員のお話を聞きながら思い出したんですが、先日カエルを握らせていただいて、生き物を触った触感とか、生き物のにおいとか、まだまだタブレットではカバーできない部分もあって、そういう部分も忘れずにやっていきたいと思います。

（小寺委員）自然体験活動など、体験して、そこに国語力や算数の計算があって、生活体験と一緒に、学校での教科教育やコミュニケーションというのが、相乗効果で両方必要だと感じています。環境の格差を無くすのにもiPadの学習が有効であると考えます。教室の中でも、視力の悪い子がいつも前の席だったり、仲間づくりにおいても、身体的ハンディのある無しに関わらず教育を受けられる。米倉委員もいらっしゃいますが、学校に来られない子どもがスモールステップで学校に戻っていける、そういった意味でも、タブレットが有効活用されると嬉しく思います。

（市　　長）タブレット依存というか、面白いからだろうと思いますが、すっとそればっかりやっている。そういうのはあるんですか。

（立石先生）ゲーム脳とか言われることがありますが、よく言うのが、授業がゲームのように面白ければ良いんです。シンキングツールを使った高度な授業もありますが、子どもたちが真剣に悩んで考えたりする授業を先生たちが作るためにも、紙媒体で、多大な時間をかけて１時間の授業をやるというのはもうできない時代ではないかと思います。こういうことを上手く使いながら、自分の時間も確保し、面白いとか、やりがいがあるとか、楽しいというものをプロとして与えることができるための必要なアイテムだと思います。

（米倉委員）ネット依存というのが、依存症の中でも最近取り上げられています。ネット依存に対する研修を、保護者も一緒にやっていただきたい。自然体験も含め、人とのつながりがきちんとあるのが必要なことだと言われているので、良い所と悪い所とを考えながらやっていただきたいと思います。

（市　　長）その他に何かありませんか。

無ければ、時間になりましたので、本日の会議はこれで終わりたいと思います。お疲れ様でした。

（終了）